

1. 福岡歯科大学周辺幼稚園児の乳歯う蝕罹患に関する疫学的考察

◦柴田 香, 尾崎正雄, 森奈千子, 中原世津子, 八尋真由美, 光本くみ子,
許 淵仁, 川口辰彦, 平川栄二, 塚本末廣, 吉田 稔

(福歯大・小児)

過去において我々は、日韓両国児童の乳歯および幼若永久歯のう蝕罹患に関する比較検討を行ってきた。その結果、日本・韓国のう蝕活動性試験において、有意の差が認められ、日本の児童のう蝕活動性が韓国に比べて高いことがわかった。これは、両国の生活環境の違いによるものが大きいように思われた。そこで今回我々は、乳歯列期のう蝕について、う蝕活動性試験を中心に、これに関与すると思われる生活環境因子を見つげ出すために調査を行った。対象は、本学小児歯科診療室において検診の協力が得られた、大学周辺の2つの幼稚園(3~6才児)、219名とし、口腔内検診・アンケート調査・う蝕活動性試験を実施した。その結果より得られたデータを、コンピューターを用いて多変量解析し、興味ある知見を得たので報告する。

2. う蝕は減少しているか？

◦神谷英隆, 竹中 稔, 山崎要一, 浜野良彦, 中田 稔

(九大・歯・小児)

最近、小児のう蝕が減少してきたといわれているが、果してその通りであろうか？
我々は、幼稚園における歯科検診でう蝕がないと診断された園児について改めて視診、触診、X線診を継続して行っている。その結果、う蝕がないと診断されたもののなかには、実際う蝕になっているものがかなりあり、特に咬翼法X線診で隣接面う蝕が発見される割合が高い。このことを考えると、実際にう蝕が減少しているかは疑問といえる。
今後、集団検診のあり方について再検討すべき時点にきていると考えるものである。